

尹飛龍「日本が好きになってきた」

私は2007年9月、初めての外国として、日本に着きました。今もう5年5か月がたちましたが、冷静に考えると、日本語はうまくなったが、日本の文化、日本の歴史、日本の政治、それから日本の経済などについて、悔しいですが、あまり深く認識できません。実を言うと、それらを理解しようとする努力がなかったためです。

今後どうやって日本での生活を続けるかをもう一回考え直す必要があると思い始めました。正直に言うと、日本に来る前に日本に対する印象はあまりよくないものでした。その原因は日本に対する知識があまりなかったからです。私のもっていた知識は、昔の日本は中国を侵略して、多くの中国人を殺したり苦勞させたりしたこと、現在の日本は経済面で中国から多く利益を盗んだこと程度しかありませんでした。日本に来るのも先生たちのすすめで、技術力が高い日本で自分を高めようとした利己的な考えでした。

然し、日本に来て、まず日本の環境に驚きました。市街にごみがなくて、川の水が澄みきって、魚が浅い水の中に生き生き泳いでいた、道路と川の両側に木がたくさん植えていて、公園もたくさんあって、東京に住んでいるのに、自然の緑がいっぱいだと自慢できることは想定外のものでした。日本にいる間、イギリスのロンドンとアメリカのオーランドへの学会に出ました。そちらと比べても、日本は勝ったと思います。日本の環境は世界一という噂は確かなようです。昔の環境問題に落ちた日本と現在の日本を比べて、中国の明るい未来が見えてきました。

それから、日本人の礼儀は素晴らしいと感じられたのは、有名なお菓子屋さんでのアルバイトをやっている間です。仲間の接客を見て、一言一言からお客様が第一位ということがしっかり分かる。恥ずかしいですが、外国人である私はそこで3年以上アルバイトを続けましたが、接客に出る自信がありません。子供の頃から、このような環境に慣れなければいけないかもしれませんね。然し、公衆トイレにトイレペーパーを入れてすぐ盗まれた時代も日本にあったことを考え、昔のような「路不拾遺」「夜不閉戸」の中国もいつか戻ってくるでしょう。

また、日本人の親切にすごく感動しました。東京に来て、電車に乗るときに何度も困りました。私は萩山で住んでいまして、学校から帰るときは国分寺で乗換が必要でしたが、どう行くかが分かりませんでした。その時、ある日本人にホームまで案内していただきました。いま思い出しても、まだ心が温かくなります。日本人に何度もこのような親切な助けをいただきました。修士から、奨学金をいただきました。奨学会は毎月月例会を行って、お金をあげるだけではなく、日本での生活、学業など幅広いことについて話し合っ、大変助かりました。これも日本人の親切の表現だなと思います。

日本の生活は便利で、日本の食品が安心であることはすごく好きです。何の業界でもルールがあって、皆が守ってくれることがすごくいいと思います。道路で車が横断歩道の手前で止まって、歩行者に譲ったり、電車、バスを乗る前に行列を作ったりして、なんでもスムーズに動いている。市役所に行って、警察署に行って、サービス精神を持っている公務員からサービスを受け、大満足でした。皆は自分の責任をしっかり認識して、守ってくれることを尊重します。

現地で、自分自身でいろいろ新しい情報を手に入れて、日本人に対する印象、日本対す

る感情が大きく変わりました。昔のことの痛みはまだありますが、塩に水をかけるように、だんだん薄くなってきました。それから、いまの平和を望んでいる日本人に昔の罪を与えることも不公平だなどと考え、自分の視線は未来志向へ変わり、平和を続けようと願い続けています。

感動があって、日本が好きになりましたが、まだ日本人のすべてを理解できるとはいえません。日本のルールが多いすぎるせいかもしれませんが、日本人の中で機械のように呼吸している方がたくさんいます。皆を活発にさせるように何かをしてあげたいです。これは私の独りよがりの考えで、間違っているかもしれません。

それから、ある政府の関係者から、日本の政治家の中に、右翼的な方が相対的に多いことを教えていただきました。個人的な考えですが、このような状況がちょっと不安です。

日本に来て、私の視野が大きくなりました。日本人と付き合っ、日本に対する敵意がなくなりました。日本で生活をして、日本が好きになりました。日本も中国もよいところを続け、よくないところを直して行って、皆の幸せのために平和的に発展し続けましょう。個人の力は何も変えられないですが、我々地球市民の皆の力を合わせれば、何でも変えるでしょう。

頑張ろう、日本！頑張ろう、皆！私も頑張るぞ！